

4 秋高連創立・設立の経緯

- (1) [創立・設立の沿革](#)
- (2) [秋高連草創期のこと](#) 東京鳳鳴会 成田 富治郎
- (3) [連絡会時代のことなど](#) 東京雄水会 柴辻 正
- (4) [秋商東京雄水会会報記事抜粋](#) 東京雄水会 柴辻 正

在京秋田県高等学校同窓会連合会（略称：秋高連）

創立・設立の沿革メモ

(1) 初連絡会の開催

（秋田県知事が抱負を開陳。11校による発起人会の設置が決定）

1982（昭和57）年4月連絡会初会合・発起人会の開催（丸ノ内ホテル）

幹事校＝ 秋田高校（呼掛け人代表・金谷勇氏 秋高連初代会長）

大曲農高（畠山達郎氏 秋高連第2代会長）

湯沢高校（佐々木富也氏 秋高連第3代会長）

秋田工高（谷藤氏）、大館鳳鳴高（成田氏）、秋田北高（三浦氏）

横手高校（戸部氏）、秋田商高（柴辻氏）、本荘高校（荒川氏）

能代北高（斎藤氏）、能代工高（成田氏）。11校11名が初会合に参加。

(2) 第2回連絡会・発起人会の開催

（11校による発起人会の設置を再確認。創立の理念・構想等につき実質的な討議）

1983（昭和58）年1月連絡会・発起人会を開催（小田急ハルク）し創立の意義・理念、構想等について出席者間で活発な意見交換・討議。

(3) 第3回連絡会総会・発起人会を開催

（会員相互の親睦、県勢の発展に資することの2本柱を承認）

1984（昭和59）年9月（ホテルグランドパレス）秋田放送取材・放映。

当日の連絡会総会出席者全員に対して、ご来賓・秋田県知事（佐々木喜久治氏）が挨拶の中で、「故郷・秋田県を後にして世界一の大都市・東京で日々公私に亘って切磋琢磨しておられる多くの秋田県出身者が生活されている。この大勢の在京秋田人は社会経験・人脈、学識と知識、知恵と見識、技能等を蓄えた人材として、来21世紀の郷里・秋田県にとって必要且つ有益な人材として必ず活躍されます。」「郷里・秋田と東京を太い絆で結ぶ為に、在京の秋田県内高校卒の方々を中核とした会（組織）で、秋田県の展望・県政等について毎年・定期的に東京で語り合いたいと言う願望を抱いております…」と述べられました。

（秋高連創立の淵源）。

秋田県知事のメッセージを出席者全員・全会一致で歓迎し、「会員相互の親睦」と「県勢の発展に資する為に連繋を図ること」を承認。

(4) 第4回連絡会総会を開催

（秋高連は郷里・秋田県内の高等学校を卒業後、関東圏（東京）に在住する各高校同窓生が相集うために組織された同窓会の連合体である。会員相互の親睦に教育・啓蒙を加えた3本柱を承認）

1985（昭和60）年10月（市ヶ谷会館）秋田テレビ取材・放映、ご来賓・土田防衛大学校校長のスピーチ。石塚出納長の挨拶・県政報告。

(5) 第1回総会

（「在京秋田県高等学校同窓会連合会」発足。会則、役員を決定。初代会長・金谷勇氏一秋田高卒）

1986（昭和61）年11月（グランドヒル市ヶ谷）の総会で会則、役員等を承認。27校250名参加、加盟各高校の校歌発表。

ご来賓・秋田県教育庁の永井隆一氏による県政報告及び講演。

平成20年1月25日（金）

「秋高連草創期のこと」

東京鳳鳴会 成 田 富治郎

今年は、在京秋田県高等学校同窓会連合会(=秋高連)創立十周年の記念すべき年に当たるといふ。そういえば、あれから既に 10 年の歳月が流れたことになる。「光陰矢の如し」とはこのようなことをいうのであろう。

秋高連の創設は昭和 61 年であるが、それ以前から在京の高校同窓会をまとめた連合体をつくろうという動きがあり、秋田商業の柴辻正さんらが中心になって、連合会結成の基盤が次第に形成されたのであった。当時は、連絡会という名で何度かの会合を持ったのであったが、丸の内ホテルで催された何回目かの会合で、会の名称、目的などについて多くの意見が出され、大いに盛りあがったことを覚えている。

私はその時、会の目的について「はじめから余り大きい目的、目標を掲げるのは止めた方がよい。えてして竜頭蛇尾に終わることが多い。会員相互の親睦と県勢の発展に貢献するという程度でよいのではないか」と発言した記憶がある。私の意見には、他の高校同窓会の方々も賛同されたようで、その故か、会則の原案作成については、私に一任ということになったのであった。

会則は、昭和 61 年 6 月 9 日に制定され、その後、二度の改正を経て現在に至っている在京秋田県高等学校同窓会連合会会則”は其の原案に依るものである。

思えば、あれから 10 年余の時間が経過したということになり、いろいろのことが思い出されて懐しい限りである。柴辻さんをはじめ、当初設立に参画された多くの方々のご健在であるが、中には鬼籍に入られた諸先輩もおられ、今日の秋高連の隆昌を見て頂けないのは誠に残念である。

[戻る](#)

「連絡会時代のことなど」

東京雄水会 柴 辻 正

記録によれば昭和 56 年 12 月 22 日に私と秋田工業の谷藤氏が、秋田魁新報東京支社の森支社長、遠藤編集部長を訪ねて、本会創立について協力を依頼し、その後大館鳳鳴・成田氏、横手高・戸部氏、秋田高・金谷氏を加えて 2 回の会合を経て、この 5 名が発起人となって本会の設立を企画した。

初会合は 57 年 4 月 23 日丸ノ内ホテルで開催した。案内状は 39 校に出したが出席は 22 校・54 名で、出席出来ないが趣旨に賛成する、が 4 校あった。

当日は発会に至る経過報告のあと、当面の活動方針として①総会などの催し、交流②名簿や会報など発行物の交換③各種研修会の実施④県代表の運動部に応援などを決め、会の名称を在京秋田県高等学校同窓会連絡会とし、秋田高、秋田北高、秋田工高、秋田商高、大館鳳鳴高、能代工高、能代北高、大曲農高、横手高、本荘高、湯沢高の 11 校を幹事校とし、当面は私が事務局を兼ねて世話役を務めることで会は発足した。

第 1 回の総会は、昭和 58 年 1 月 8 日、新宿・小田急「豪華」で開催した。出席者は 22 校・137 名で、本会に対して県並びに関係先から在京県人の有力団体としてその発展を期待され、来賓として次の方々が出席した。県から佐々木知事、篠田出納長、畠山教育長、成田商工労働部長、佐々木観光物産課長、三宅東京事務所長、高橋東京物産観光事務所長のほか、秋田魁新報社、秋田放送、秋田テレビ、秋田銀行、羽後銀行、秋田相互銀行、秋田県木造住宅、秋田木工などの在京代表の方々が臨席された。

この会は、翌昭和 59 年 1 月 10 日、前回同様新宿・小田急「豪華」で開催したが、県東京事務所からの要望により、県人会、経済人、文化人などと合流して、県の新春懇談会として 300 名規模の会合となり、当会からは 22 校・159 名が出席した。その後、県主催の新春懇談会となり今日に至っている。

第 2 回総会、昭和 59 年 9 月 21 日、飯田橋のホテルグランドパレスで佐々木知事を迎えて 25 校・132 名出席して開催した。当日の様子は秋田放送により地元 秋田で放映された。

第 3 回総会は、昭和 60 年 10 月 15 日、市ヶ谷会館(現グランドヒル市ヶ谷)で 24 校・151 名出席して開催、来賓は県から石塚出納長出席のほか、矢島高・佐藤幸助氏の尽力により県出身の知名人である防衛大学校長・土田国保氏(秋田県人会連合会顧問)の講演があった。この総会終了後、本会の一層の発展を期し、連合会組織に変更され、当時の会計残高 424, 015 円は引き継がれた。

[戻る](#)

秋商東京雄水会会報記事抜粋

東京雄水会長 柴 辻 正

57年1月秋田県高校同窓会連絡会設立のため秋工谷藤会長、横手高校戸部会長、大館鳳鳴成田会長等と協議し、秋田高金谷会長を加えて5名が発起人となり、57. 4. 23丸の内ホテルで設立の会を開き58. 1. 8第1回総会を秋田県知事、畠山教育長等を招いて新宿小田急ハルク豪華で開催した。第2回。第3回とも県知事が出席した。第4回には石塚県出納長と土田防衛大学長(県人会顧問)等出席したが私は4年間代表幹事を務めた。

61. 11. 13の総会で今後の益々の発展のため連絡会を連合会に組織替し秋高金谷さんを会長にして新発足した。 資料提供:秋商 和田 武男

[戻る](#)